

『悪霊たちでさえ従うイエス』

'20/11/15

聖書箇所: マルコの福音書 5章 1-20節 (新約 p.72-)

先週、私たちは、イエス様が、ガリラヤ湖で、大風と荒波を静められた奇蹟について見て参りました。一体、このイエス・キリストというお方は、誰なのか？ 果たして、何者なのか？ というのを、聖書は、繰り返して、繰り返して…。私たちに教えようとしてくれています。時に、私たちは、その者の証言を直接聞かなくても、その周りの者たちの反応や証言を通して、その者の正体を知ることができたりします。

例えば、私は、かつて、家の近くで、物々しい警備で守られている人物を見かけたことがありました。後で分かったことなのですが、実は、その方は、時の政府の外務大臣でした。そのように、もしも私たちが、ある方のお顔や名前、あるいは、地位などを知らなかったとしても…。その周りの状況や、その周りにいた者たちの証言を聞くことなどで、ひょっとしたら、その方がしてくださる自己紹介(例えば、名前だけ?)以上に、正しく、その方のことを知ることができるかも知れません。

命題: イエス・キリストの力と、その正体について…?

実に、そういったアプローチを、マルコは、ここ最近の聖書箇所を通して、してくれています。今回のみことばを見てみますと、イエス様ご自身は、自分が何者であるのか? ということに関しては、何も、お話しになっておられません。しかし、イエス様に対する周りの者たちの行動や証言などを通して、イエス・キリストというお方が、一体、何者であったのか? また、イエス・キリストが持っておられた力や…。そのお考え? について、今日は学んでいきたいと思えます。どうぞ、今日の聖書箇所であります、マルコ 5:1-20 をお開きください。そこには、このように記されてあります。

- 1 こうして彼らは湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。
- 2 イエスが舟から上がられると、すぐに、汚れた霊につかれた人が墓場から出て来て、イエスを迎えた。
- 3 この人は墓場に住みついており、もはやだれも、鎖をもってしても、彼をつないでおくことができなかつた。
- 4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまったからで、だれにも彼を押さえるだけの力がなかつたのである。
- 5 それで彼は、夜昼となく、墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていた。
- 6 彼はイエスを遠くから見つけ、駆け寄って来てイエスを拝し、
- 7 大声で叫んで言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのですか。神の御名によってお願いします。どうか私を苦しめないでください。」
- 8 それは、イエスが、「汚れた霊よ。この人から出て行け」と言われたからである。
- 9 それで、「おまえの名は何か」とお尋ねになると、「私の名はレギオンです。私たちは大ぜいですから」と言った。
- 10 そして、自分たちをこの地方から追い出さないでくださいと懇願した。
- 11 とところで、そこの山腹に、豚の大群が飼ってあった。
- 12 彼らはイエスに願って言った。「私たちが豚の中に送って、彼らに乗り移らせてください。」
- 13 イエスがそれを許されたので、汚れた霊どもは出て行って、豚に乗り移った。すると、二千匹ほどの豚の群れが、陰しいがけを駆け降り、湖へなだれ落ちて、湖におぼれてしまった。
- 14 豚を飼っていた者たちは逃げ出して、町や村々でこの事を告げ知らせた。人々は何事が起こったのかと見にやってくる。
- 15 そして、イエスのところに来て、悪霊につかれていた人、すなわちレギオンを宿していた人が、着物を

着て、正気に返ってすわっているのを見て、恐ろしくなった。

16 見ていた人たちが、悪霊につかれていた人に起こったことや、豚のことを、つぶさに彼らに話して聞かせた。

17 すると、彼らはイエスに、この地方から離れてくださるよう願った。

18 それでイエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人が、お供をしたいとイエスに願った。

19 しかし、お許しにならないで、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」

20 そこで、彼は立ち去り、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。

I・イエス様は、悪霊たちをも支配しておられる!

今読んだみことばには、悪霊たちのことが語られてありました。そこで、今日は、イエス様のことに加え、悪霊たちのことも一緒に学んでいかなくてはなりません。まず、私たちが、初めに確認していきたいポイントは、イエス様は、その“悪霊たち”をも支配しておられる! ということでもあります。

●悪霊たちは、人間以上の能力を持っている!

今日のみことばを見ていきますと、まず、最初に目に付きますのは、悪霊たちが及ぼす影響の大きさ…。ひいては、悪霊たちが持っている能力の数々であります。…と言いますのは、例えば、3節をご覧くださいますと、『この人は墓場に住みついており、もはやだれも、鎖をもってしても、彼をつないでおくことができなかつた…』という、悪霊につかれていた男が登場してきます。鎖をもってしても、この人物を繋いでおくことができなかつたというのは、相当であります。

また、どうぞ、4節の方もご覧ください。そこには、この悪霊につかれていた男が、『鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまった…』ということが書かれてあります。つまり、悪霊は、私たち人間のからだを使って、普通の人間にはできないはずのないような…。『鎖や足かせ』を破壊することもできた…と言うのです。

こういったことと関連して…。ぜひ思い起こしたいのは、イエス様が私たちの罪のため、十字架にかかって葬られた後、そのお墓に、イエス様の弟子たちが来て、イエス様の遺体を勝手に盗み出して、「イエス・キリストが預言通り、よみがえった!」などと言いつらしたりすることがないように、イエス様のお墓には、『封印』(マタイ 27:66)として、大きな石が置かれてありました。しかし、その石を御使いが移動したということが、マタイ 28章で書かれてあります。もちろん、ここで言われている御使いとは、悪霊たちのことではなく…。良い天使たちのことではありますが…。でも、元々は、天使も悪霊も…。同じ神によって造られた、神の使いであって…。ある時、サタンの誘惑に負けて、悪に屈してしまった者たちが悪霊であり…。悪に屈することなく、神に従い続けた者たちが天使…。あるいは、御使いなのです。つまりは、悪霊も天使も、基本的には、同じような力や能力を持っていると考えることができます。

時々、映画や小説などで…。霊的な存在である天使や悪霊たちは、実際の物質で構成された私たち人間に、直接、影響を与えることができない…。というようなことが言われることがありますが、聖書はそうは教えません。それどころか、聖書は、悪魔や悪霊たちが現実存在し…。私たち人間を操ったりするだけでなく…。私たち人間以上の力を持っていることなどを、はっきり教えてくれています。だから、私たちは、こういった悪霊たちについて知り…。彼らに対して、警戒すべきなのです!

● **悪霊たちは数多く存在し、また 死ぬ こともない！**

また、それだけではありません…。どうぞ、9 節をご覧ください。そこには、イエス様が、その男を支配していた悪霊に対して、その名前を尋ねたということが書かれてあります。すると、その悪霊は、自分が、『レギオン』(Λεγιών)であると答えます。この『レギオン』という言葉は、元々、ローマの公用語であったラテン語で…、「通常は、6,000 人ほどの軍隊(3,000-6,000 人のこともあったらしいが)…」を指すような言葉でありました。そういったことから、この「レギオン」という言葉は、「大人数、大勢…」というような意味になっていったようです。ですから、9 節後半には、この『レギオン』という言葉の後で…、『私たちは大ぜいですから…』というような説明があるわけなのです。この『レギオン』という言葉から、この時、男に取りついていた悪霊たちが、6,000 人も居たということではありません。しかし、その数が、10 や 20 で無かったということは、この時、悪霊たちが移って…、おぼれ死んでしまった豚の群れが 2,000 匹ほどであったという、13 節のみことばから察することができます。

つまり、悪霊たちは数多く存在している！ということも、このみことばは教えてくれています。また、マタイ 22:30 には、『復活の時には、人はめとることも、とづくこともなく、天の御使いたちのようです。』とあることなどから、霊的な存在である御使いや悪霊たちは、私たち人間のように、寿命を迎えたり…、病気になるたり…、あるいは、大ケガをしたりして、死んだりするような存在ではない！ということもかえります。…と言うことは、つまり、この時、男から追い出された悪霊たちは、恐らく、死んだのではなく、今も、生きて活動している…と考えられます。そういったことから、彼ら悪霊たちの知識や経験量と言うべきものは、どんどん増していく一方だという風に考えられます。

● **そんな悪霊たちであっても、イエス様が 命じられる と…**

そういう意味におきましても…、悪霊たちは、私たち人間以上の能力を持った存在であると言い得ることができます。何故なら、彼ら悪霊たちは、私たち人間以上に、知恵があり…、力もあり…、霊的な存在であるが故に、基本的には死ぬこともなく…、私たち人間に乗り移って操ることだってできるからです。しかし、そんな悪霊たちであっても…、イエス様に対しては、なす術もありません。

今日のみことばの 10 節をご覧くださいますと…、この時、悪霊につかれていた男は、イエス様を見て、『自分たちをこの地方から追い出さないとくたさないと懇願した。』とあります。その理由は…、8 節にあるように、イエス様が悪霊たちのことを追い出そうとされたからでありました。

でも、実は、ここマルコ伝には書かれていないのですが、平行記事であるルカ伝 8 章には、この悪霊たちが一番に恐れていたことが記されてありますので、どうぞ、ちょっと、そこをご覧くださいますか？ ⇒ ルカ 8:31、『悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませぬようにと願った。』とあります。悪霊たちが恐れていた、この『底知れぬ所』(ἀβυσσος)という言葉が何を指しているのか？どうぞ、今度は、黙示録 20:1-3 をご覧ください。『1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から下って来るのを見た。2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。』

⇒今、お読みしました、1 節と 3 節のところに、今日のみことばと同じ、『底知れぬ所…』という言葉が出てきていました…。このみことばは、幻のような形で、神様から見せられた預言を、使徒ヨハネが書き残してくれたものであります。聖書のみことばは、はっきりと、今の、この世が終わりを迎える時が来る！ということを教えてくれています。その時、悪魔は、『底知れぬ所』に投げ込まれ…、1000 年の間縛られます。それから、この地上に、千年王国の時代が訪れます。その間は、比較的、平和な時間が流れます。

…と言うのも、その 1000 年の間、悪魔は縛られているからです。しかし、その 1000 年が終わると、悪魔は再び解放されて…、キリストに最後の戦いを挑みますが…、最後には敗れ、ようやく裁きに下ります。

そのことが、黙示録 20:7-10 に書かれてあります。『7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海への砂のようである。9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都を取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。』

⇒このように、悪霊たちは、自分たちがいずれ裁かれなければならない！という運命を知っています。…と言うのは、悪霊たちに、救いのチャンスはないからです(ヘブル 2:16)。だから、今日のみことばで、悪霊どもは、イエス様から、「底知れぬ所に行け！」と命じられることを恐れたのです。それは、つまり、自分たちの自由が終わり…、いよいよ裁きに下らなければならない…ということの意味したからです。

しかし、この時、イエス様は、悪霊どもをお裁きにはなりません。一体、どうして、イエス様は、悪霊たちを裁かれなかったのでしょうか？ ⇒それは、今の、この時が…、彼らが裁かれるべき、神のみこころのタイミングではなかったからです。彼らは、もっと後で…、然るべき時に、裁かれるべき運命にあるのです。

いえ、悪霊たちだけではありません。私たち人間だって、いつか必ず、神様の前に立たされて、神様の裁きを受けなければならない日がやってきます。…その時に、神様から祝福されて、その後を永遠に神様と過ごすか、あるいは、皆さんがこれまでに犯してきた罪が裁かれて、永遠を、悪魔たちと共に過ごすか…。その選択は皆さんの側にあります！

そういったことは別に…、ひょっとしたら、私たちも今、私たちが生かされている今の間に、神の裁きがかかることを願ったりするようなことがあるかも知れません。実際、私も、初めて教会に来た頃は、自分の周りにも、様々な悪事や犯罪が横行しているのを見て…、「もしも、本当に神様がいらっしゃるなら、どうして、その神様は悪を野放しにしているのか？」などと思いました。しかし、そういったことを考える人は、大きな間違いを犯しています。…と言うのは、その人は、「自分も、神の前に裁かれるべき罪人である！」ということをおぼれ忘れているからです。そうではないでしょうか？「どうして、神は、こんな悪事や、あるいは、あんな罪を放っておかれるのか！」と考える人は、自分より下に、勝手なボーダーラインを引いて…、自分は裁かれない…。自分は悪くない…と思いついてしまっています。しかし、それがおかしいのです！ 聖い神様の目には、すべての人間が悪に染まっています…、すべての人間が、本来ならば裁かれるべき存在なのです。しかし、今、私たちがこうして裁かれずにいるのは、すべて、神の憐れみ、神の恵みのゆえであり…、実は、それこそ、神の御計画なのです。しかし、神はいつまでも裁きを延ばされることはありません。やがて、神の時が来たら…、然るべき時に、必ず、神の裁きは下ります。そのことを、私たちは、先程見た黙示録 20 章の預言などを通して、重く受け止めないといけないのではないのでしょうか？

どうぞ、今日のみことばに戻ってください。イエス様は、悪霊たちに、「底知れぬ所に行け！」とは、おっしゃいませんでしたが、その代わりに、12 節にあるように、『私たちを豚の中に送って、彼らに乗り移らせてください！』という願いを聞いて、悪霊たちが、その豚たちに入ることを許されました。そのせいで、豚が約 2,000 匹もおぼれ死んだ、というのです。

実は、イスラエルの者たちからすると、豚という動物は汚れている…とされておりましたので、通常、飼育されるようなことはありませんでした。しかし、今日のみことばの、1 節に書かれてある、『(ガリラヤ)湖の向こう岸、ゲラサ人の地…』と言いますのは、所謂、異邦人たちのエリアでありますので、そこでは、たくさんの豚たちが飼われていたわけなのです。

以上のことから分かりますのは、悪霊たちと言いますのは、元々、神の御使い、天使であつたわけですから、私たち人間とは比べ物にならないほど、たくさん能力に溢れ…、ある意味において、私たち人間以上の存在であると言えます。しかし、そんな悪霊たちであっても、イエス様が一言命じれば、そのイエス様の命令に従わざるを得ません。つまり、イエス様とは、そういうお方なのです！…果たして、このイエス様とは、何者なのでしょう？

皆さん、気付いてくださいました？…実は、先ほど引用したルカ 8:31 で、悪霊どもが、『イエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。』ということが書かれてありますが…、そもそも、悪霊と言いますのは、神に逆らい…、イエス様に敵対する者たちであります。そんな悪霊たちは、イエス様が命じたから…と言って、そのイエス様の言いなりになる必要なんてないわけですよね？⇒でも、彼ら悪霊たちは、イエス様がお命じになったら、それに従うしかないので！それは、ちょうど…、創世記 1 章で、天の神様が、「光があれ！」と命じられると、その通りになった、というのと重複します。イエス様が、そうおっしゃれば、どんなことであっても、それは実現します！つまり、イエス様のお言葉には、それほどの権威がある…。ひいては、イエス様ご自身に、それだけの権威がある！ということなのではないでしょうか？

II・そのイエス様の、正体とは？

さて、次に、私たちが見ていきたいことは、肝心なイエス様の…、“正体”であります。一体、イエス様は何者なのでしょう？…もう、このことについては、皆さんも十分に分かってくださっていますけれども、そのことは、聖書の1番肝心な部分でもあり…、この聖書が教えてくれている、福音のメッセージの“根幹”をなす教えでもありますので、もう1度、そのことの確認をさせていただきます。

●6-7 節、悪霊につかれていた男の言動

どうぞ、今日のみことばの 6-7 節をご覧ください。そこでは、悪霊につかれていた男が、イエス様のことを見るや、『…イエスを遠くから見つけ、駆け寄って来てイエスを拝し、大声で叫んで言った。いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのですか。神の御名によってお願いします。どうか私を苦しめないでください。』と言ったということが書かれてあります。悪霊につかれて…、悪霊に支配されていた男が、イエス様にひれ伏したのです！これは、一種の礼拝です。悪霊たちは、人間とは比べ物にならないほどの知識を持っています。悪霊たちは、イエス様がどなたであるのかということをよく知っていたのです！ヤコブ 2:19 に、『あなたは、神はおひとりだと信じています。りばなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。』とあるように、悪霊たちは、イエス様の正体を知っていたのです！だから、彼らは身震いして…、そのイエス様の前にひれ伏したのです。

また、この悪霊につかれていた男は、イエス様を見て、『いと高き神の子、イエスさま！』と叫んだとあります。ここで言われている、『神の子…』という表現は、イエス様が、その本質においては、神そのものである…ということをも認めている表現だと考えられています。

●イエス様による、19 節の証言

また、次に、どうぞ、19 節をご覧ください。そこで、イエス様は、こうおっしゃっておられます。『あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。』⇒ここで、イエス様は、悪霊を癒された？男に対して、誰が、あなたから悪霊を追い出してくださったと教えておられます？…『“主が”あなたに、どんなに大きなことをしてくださったか』と、イエス様はおっしゃいます。そうでしょ！…つまり、イエス様は、この男から悪霊を追い出されたのは、神様だとおっしゃるのです。

しかも、どうぞ、それに続く 20 節に注目してみてください。イエス様から、「家族の所に帰って、このことを伝えなさい！」ということを言われた、この男は、20 節、『そこで、彼は立ち去り、“イエスが”自分にとどろくに大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。』と書かれています。皆さん、気付いてくださいます？⇒イエス様は、ここで、「あなたを癒してくださったのは、神様ですよ！」という話をしてくださっているのですが、聖書のみことばは、その癒しをされたのは、イエス様であった…。つまり、イエス様こそは、真の神なのである！ということも、このみことばは教えてくれているのではないのでしょうか！

正直…、今日のみことばだけで、イエス様こそが真唯一の神である！という結果まで持っていくのは、苦しいのかも知れませんが…。しかし、この福音書を書いたマルコは、そういった証言や事実をたくさん私たちに伝えることによって、このイエス様こそが真の神であり…、私たちが信じ従うべき唯一の救い主であるのだ！ということも、私や皆さんに教えてくれているのです。

III・イエス様が、あなたに期待しておられること。

そして、今日、最後に、私たちが確認していきたいことは、イエス様が、皆さんに“期待”しておられることです。イエス様の偉大さを知り…、イエス様の正体を知った者たちは、その後、どのように生きていくべきなのでしょう？どうぞ、今日のみことばの 16 節以降をご覧ください。

●救われていない者たちの反応とその選択

そこをご覧くださいますと、『見ていた人たちが、悪霊につかれていた人に起こったことや、豚のことを、つぶさに彼らに話して聞かせた。』とあります。この時もまた、イエス様のなされたことに、人々は、驚きます。でも、それは当然として…、注目すべきなのは、その次の 17 節です。そこには、『すると、彼らはイエスに、この地方から離れてくださるよう願った。』とあります。…皆さん、分かってくださいます？なんと、この当時のゲラサ人たちは、悪霊を追い出されたことよりも、たくさん豚が死んでしまったことによる「経済的な損失」の方を優先して…、イエス様に、ここから出て行ってください！と願うのです。

残念なことに、このゲラサ地方の者たちは、自分たちの目先の経済的な損得でもって、そういったことを判断してしまったために、救い主を拒んでしまいました…。でも、こういったことは、現代でも頻繁に起こっています。「教会に行くと、金をむしり取られる…。キリスト教を信じたら、エライことになる…。」そんな間違った噂や惑わしが、今の世にあっても、多くの者たちの選択を誤らせています。残念ながら、多くの者たちは、真理を知って、正しい行動&価値ある選択をすることよりも…、目先の損得や、この世で自分の思い通りに生きていくことを優先してしまう傾向にあるのではないのでしょうか？

●悪霊から解放された者の願い

しかし、それとは反対に、この時、悪霊から解放された男は、イエス様に対して、「お供をしたい！」と願います。この男は、自分の人生を取り戻してくださったイエス様に対して…、自分のすべてを捧げて、このイエス様に従っていくことを願うのです。

しかし、そんな男に対して、イエス様は、19 節、『あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。』とお命じになりました。恐らく、それは、このゲラサ地方には、ほとんど福音のメッセージが伝わっていなかったからだと思います。この男に対するイエス様のみこころは、イエス様と共に旅をしていくことではなく…、自分の家に帰って、家族や近所の者たちに、イエス様こそが、真の神であり…、また、唯一の救い主であることを伝えることであつたのです！

<励ましの言葉>

それと同じように、神様は、ここにおられる皆さんに対しても、一人ひとりに違う神様のみこころ…、つまり、御計画というものを持っておられます。でも、それらすべてに共通することは、私たちの残りの生涯をもって、神様の素晴らしさを伝えていく…、イエス様のことを証していく！というものであります。いかがでしょう？ここ1カ月の…、あるいは、ここ1年の、あなたの歩みは、そのようなものであったでしょうか？今、皆さんは、自分に…、本当の人生を与えてくださった神様への感謝や献身の思いで満たされているでしょうか？

そうして、未だ、イエス様を信じておられない皆さん。イエス様は、すべてを支配しておられる真の神様であります。イエス様を信じ…、イエス様を心にお迎えすることによって、私たちは、本当の価値ある人生を歩んでいくことができるのです。どうぞ、このイエス様のことを信じ、あなたの神、あなたの救い主として信じて、本当に価値ある人生をイエス様と共に歩んでいただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。